

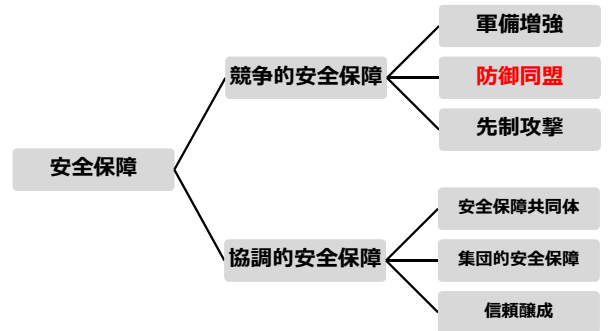
抑止と同じく、同盟は競争的安全保証の一つ

国際政治学

講義13 同盟と安全保障

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

安全保障政策としての同盟

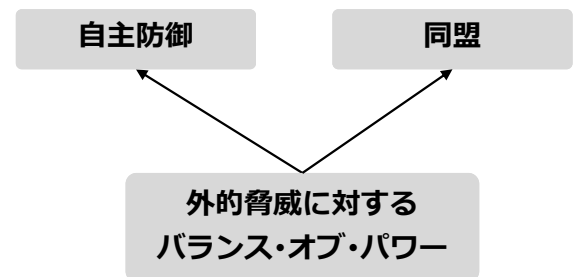


国際政治学

講義13-1 同盟と安全保障 ～安全保障政策としての同盟～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

安全保障政策としての同盟



安全保障政策としての同盟

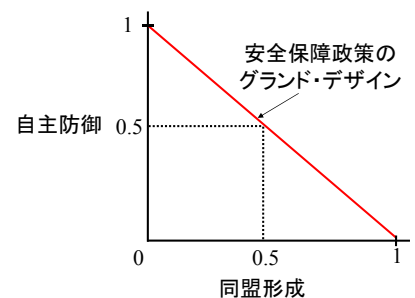
同盟と自主防衛のPros and Cons

	同盟	自主防衛
時間	短期	長期
コミットメント問題	信頼性に欠く	信頼性確保
安全保障のジレンマ	悪化	悪化
エントラップメント	あり	なし
コスト	他国の資源	自国の資源

エントラップメント＝他国の戦争に巻き込まれる危険
コスト＝他国の資源にも依存する

安全保障政策としての同盟

同盟形成と自主防衛（軍備増強）の相互代替性

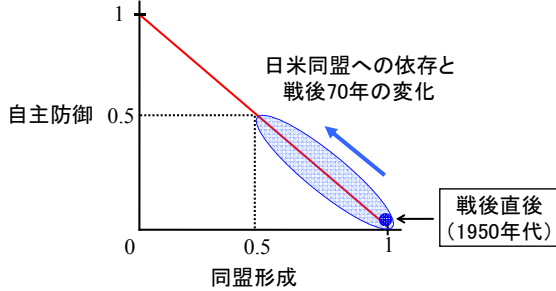


安全保障政策ではグランドデザイン＝自主防衛と同盟のバランスをどう取るか考えなくてはならない。

戦後日本の安全保障政策における選択

戦後日本の安全保障のグランドストラテジー

- 同盟 vs 自主防御のアンバランス (同盟に依存)
- 1970年代、1990年代、2010年代に軍備増強 (自主防御へ)



日本の安全保障は特殊＝同盟に依存している。
終戦後同盟政策や安全保障政策の変革。今、徐々に自主防衛の方向へ向かっているが、以前として同盟政策への依存は変わらない。

同盟の定義

同盟:

特定の軍事的状況における行動を規定する複数の主権国家間の取り決め・合意

侵略など

- 「軍事状況」は一般的に、他国による主権の侵害を伴う
- 国内問題には不適用 国際問題のみ
- 軍事紛争における具体的な行動を規定
- 軍事協力メカニズムを平時から整備

共同演習など、有事における行動を取るために平時の体制整備も規定する。

国際政治学

講義13-2 同盟と安全保障 ～同盟の定義～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

なぜ同盟なのか？

【同盟機能の「力の集積 (Power Aggregation)」モデル】

同盟国間の力を集積し、各1国よりも大きな力を形成

【機能】

- 2国(S_1 と S_2)が、潜在敵国(S_C)とのバーゲニング問題に共通の利益を見出す 同盟の前提条件.

- 共同軍事行動:

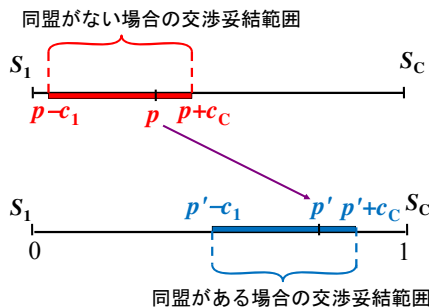
- 戦闘能力を向上 (p を向上)
- 武力行使に伴うコストを低減 (c_1 を低減) 上.
- バーゲニングで交渉力を向上

S_1 が戦争に勝ち得る確率、あるいは交渉による獲得できる新たな財の配分を向上させる。バーゲニングの交渉力の向上。

Text

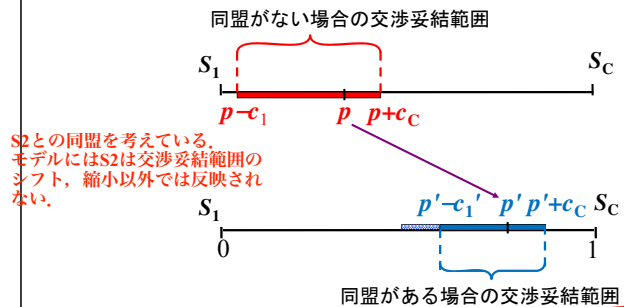
なぜ同盟なのか？ 力の集積モデル

同盟による力の集積が、軍事能力を向上($p \rightarrow p'$)させる場合



なぜ同盟なのか？ 力の集積モデル

同盟が、軍事能力だけでなく、戦争コストに影響を与える場合



S_2 との同盟を考えている。モデルには S_2 は交渉妥結範囲のシフト、縮小以外では反映されない。

p の向上によって交渉妥結範囲が S_1 に有利にシフト、 c の低減によって交渉妥結範囲が S_1 に有利に縮小。

しかし、平相的妥結範囲が縮小してしまうことは平相的解決をより困難にする可能性も考えられる。

同盟の定義

1. 防御同盟

同盟国が攻撃を受けた場合の、共同防御の取り決め

- 軍事行動を規定し、抑止を目的とする
- 防御同盟締結は、他国からの攻撃を28%低減させる
- 全同盟の48%でしかない
- 19世紀・20世紀を通じて最も典型的
- 例: NATO, ANZUS、米韓同盟

日米同盟もそう。

同盟の定義

2. 攻撃同盟

同盟国が攻撃を受けた場合の対処(防御)ではなく、他の軍事目的のための、共同対処を規定

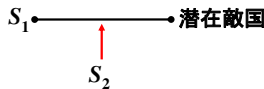
- 攻撃同盟締結は、他国への攻撃を47%増加させる
- 例: 日独伊三国同盟

同盟の定義

3. 中立同盟

同盟国の他国との軍事紛争に際して、同盟国の対立国の側に立って軍事関与・支援をしないことを誓約

- 同盟国が関与する軍事紛争への不介入を規定
- 中立同盟締結国は、他国への攻撃の確率が57%高い
- 20世紀に多くの事例



締結国は大体戦争を企てている。

同盟による交渉範囲のシフト，縮小を防いでいる。

同盟の定義

4. 不可侵条約

同盟国に対して武力行使・侵略行為を行わないことを誓約

- 同盟国間の紛争は、武力によらずに解決することを規定
- 20世紀に多くの事例
- ソビエト連邦が多く締結



対立軸をS1 S2 vs Sc おおいていた他の同盟の形態と違って，S1，S2の双方の対立を想定している，国際紛争を解決する際に武力行使を行わないという合意。

同盟の定義

5. 協商 Entente

- 同盟国と、外交問題(軍事危機に限らず)に関して、相互に協議・調整し、協力・協調を誓約する
- 軍事援助義務はとくに無い
- 協商は、19世紀に多くの事例
 - 三国協商(英・仏・露): 1914年に独に対して開戦
 - 日仏協商(1907年)

同盟の分類学

同盟の分類は、相互排他的でない

- 同盟条約は、複数のタイプの誓約を含む
- 全ての5類型を含む同盟はほぼ無い
- 防御同盟にも攻撃同盟の要素は含まれる

国際政治学

講義13-3 同盟と安全保障 ～日米同盟～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

日米同盟

日本の唯一の同盟関係

日米同盟(日米安全保障条約、1960年):

日本における、日米いずれか一方に対する攻撃に関し日米が共同して対処することを規定

第1条: 防御同盟

第5条: 米国による日本の**防御義務** **新安保で追加された**
(片務的軍事援助・非対称)

第6条: 米軍の日本駐留(日米地位協定)

安保改正前はアメリカに駐在権があったが防衛義務はない＝自主防衛でも同盟でもない中途半端なグランドデザイン

非対称同盟としての日米安保

非対称(片務的)同盟

- 日米安保体制(1960年～)
- 米国は日本の防御に義務を負う一方、日本は米国の防御に義務を負わない(日米安保条約第5条)
- 「集団的自衛権」として問題 **対称的・双務的にした方が?**

対称(双務的)同盟

- 締結国同士は、相互の防御・軍事援助・支援を誓約し、同等の責務や負担を負う
- NATOは対称同盟

同盟の二面性

1. 軍事介入

- 有事の際の軍事行動を規定
- 日本が攻撃を受ける際に、米国が日本の防御にあたる

2. 拡大抑止 vs 直接抑止. 抑止国が第三国に抑止を提供.

- 軍事介入の誓約と、軍事協力メカニズムを平時から整備
 - 平時における日本に対する攻撃・侵略を抑止する
- 一般抑止:** 日本に対して現状変更を求めた危機外交や軍事紛争の発生を抑止

緊急抑止: 危機外交や軍事紛争において日本に対する武力行使を抑止

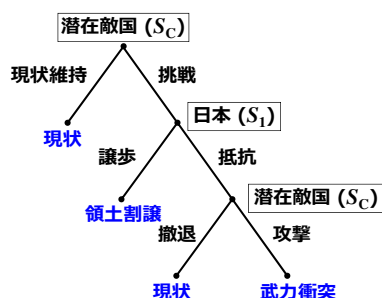
武力行使が明確でも差し迫っていない.

逆

同盟とは軍事介入である同盟とは拡大抑止を図る.

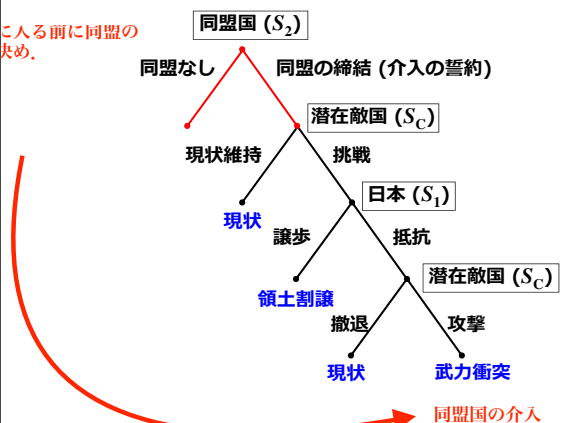
同盟の拡大抑止→軍事介入というコミットメント、軍事協力メカニズム構築による担保(信憑性)。これによって潜在敵国による日本に対する現状変更挑戦行動を阻止、一般抑止.

国際危機のモデル

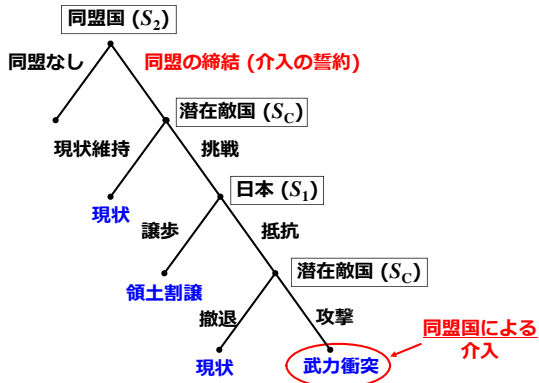


国際危機と同盟のモデル

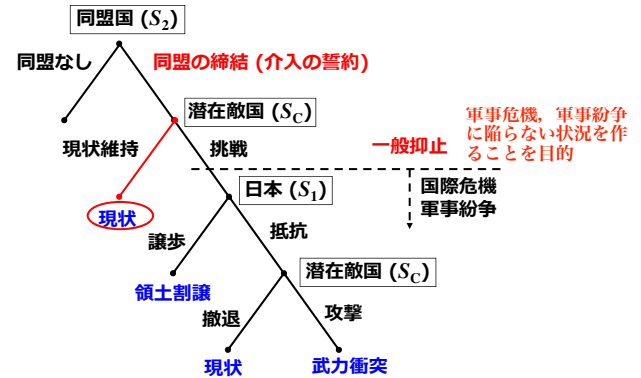
有事に入る前に同盟の取り決め.



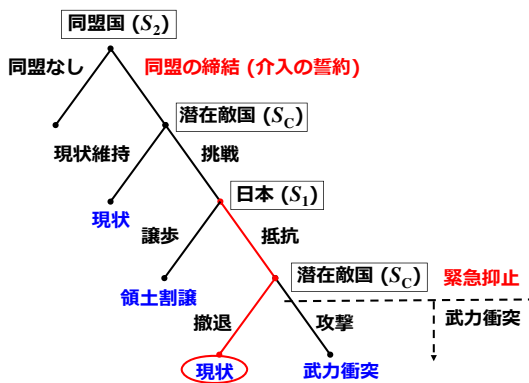
同盟と軍事介入



同盟と一般抑止



同盟と緊急抑止



国際政治学

講義13-4 同盟と安全保障 ～同盟のパズル～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

国際危機においても武力衝突を最終的に避けようという

同盟のパズル

1. 軍事介入に同盟は不必要
平時の軍事協力メカニズムがない場合の戦時の「有志連合」
 - ・ イラク戦争における“Coalition of the Willing”
 - ・ 朝鮮戦争における国連軍
2. 拡大抑止に同盟は寄与しない
 - ・ 一般抑止には寄与するはずだが明確な証拠が欠如
 - ・ 緊急抑止には寄与しない(統計的に有意でない)
3. 同盟における軍事介入の誓約の20%は反故

同盟のパズル

【問】なぜ国家、そして日本は、同盟を選択するのか？

1. 同盟は、介入の達成には不必要
2. 同盟は、抑止の達成には有効でない
3. 同盟には膨大なコストが伴う
 - － エントラップメントの危険
 - － 平時コスト(財政コスト、心理コスト、政治的成本)

パズル:
なぜ便益に見合わない費用を支払うのか？

同盟形成パズルの解

【答】同盟形成・維持は抑止シグナルの有効なメカニズム

- 同盟形成・維持は、**情報**を伝達
 - 同盟国間(S_1 と S_2)の共通利益
 - 戦闘能力の向上
 - 潜在敵国(S_C)の戦争コストの増大
- このような情報は潜在敵国にとっての挑戦や攻撃へのインセンティブを低減させる

同盟形成パズル(再び)

【問い】なぜ同盟は潜在敵国(S_C)に抑止シグナルを送るのか？

【問い①】なぜ国家はシグナルを送る必要があるのか？

- ⇒ 不確実性による交渉の失敗(=武力衝突)
- ⇒ シグナルを用いて不確実性の克服

【問い②】なぜ国家は**同盟**を使ってシグナルを送るのか？

- ⇒ 拡大抑止における信憑性の問題
- ⇒ 同盟国による介入コミットメントの**意思と能力**が不確実
- ⇒ 同盟国による介入コミットメントの**信憑性**が問題

同盟形成パズルの解

【同盟国による介入コミットメントの信憑性問題】

コミットメントの信憑性の確立とは？

- ⇒ 介入を期待できる同盟と、期待できない同盟とを峻別する必要
 - 同盟国にとっての戦略的問題
 - 潜在敵国にとっての戦略的問題
- ⇒ 介入の意思・能力がなければ不可能な行動をとる必要

同盟の形成・維持は、介入の意思・能力を持たない国には取れない選択肢

- ・同盟は介入の平時からの準備メカニズム
- ・コスト・リスクが高すぎる

同盟形成パズルの解

同盟形成・維持にともなうコストとリスク

戦争拡大経路としての同盟(例: WWI)

- ・ 他国の戦争に巻き込まれる危険
- ・ 他国が戦争を引き起こす危険

平時コスト (事前コスト)

- ・ 財政コスト (海外駐留、装備標準化、共同軍事演習)
- ・ 政治コスト (基地問題、国内批判、安全保障のジレンマ)

評判コスト (事後コスト)

- ・ 将来の信憑性低減のリスク

同盟の論理

高コスト・高リスクの伴うシグナルとしての同盟

- ・ 同盟は、最も高コスト・高リスクな安全保障政策
- ・ 同盟は、最も強いタイプの抑止シグナル
- ・ つまり、同盟は拡大抑止のための有効な政策
- ・ 同盟は締結・維持は「抑止のための威嚇」である

⇒ 同盟は有史以来の安全保障政策の定石

同盟の論理のまとめ

【同盟パズルの解答(総括)】

パズル

同盟は高コストである一方、その効果が期待できない

答え

- ・ そのコストそのものが解
- ・ 同盟は高コストであるからこそ、効果は度外視しても、敢えて形成・維持する理由がある

政策評価の問題

【同盟の存在理由(その政策的有効性)は何か？】

介入コミットメントが実際に履行されたか否かではない

- 抑止の成否が重要であるため
- 介入は、抑止が失敗して初めて問題となる性質の事柄

同盟の成功とは、潜在的な国際危機や軍事対立を未然に予防することである

- 武力衝突の発生は、介入の有無に関わらず「政治の失敗」

介入があるかないかは本質的な問題じゃない、同盟は介入を目的とするのではなく、介入の約束による抑止が目的、

国際政治学

講義13-5 同盟と安全保障 ～同盟の政治～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

同盟の論理

日米同盟の日本にとっての最も重要なコスト

- 沖縄住民の苦痛・苦悩



同盟の論理

日米同盟の日本にとっての最も重要なコスト

- 政府・本土住民に対する不信・憤り



同盟の論理

日米同盟の日本にとっての最も重要なコスト

- 政権の瓦解(鳩山由紀夫内閣)



同盟の論理

日米同盟の日本にとっての最も重要なコスト

- 沖縄住民の苦痛・苦悩
- 政府・本土住民に対する不信・憤り
- 政権の瓦解(鳩山由紀夫内閣)

逆説

- 反対運動
 - 内閣の失敗
- ⇒ 日米同盟の信憑性に寄与

同盟の論理と沖縄問題

米国にとっての日米同盟のコスト

政治的・心理的コストは相対的に低い

- ・片務的同盟に対する説明責任
- ・本国を離れた異文化での生活(転勤族 military brat)

同盟の論理と沖縄問題

米国にとっての日米同盟のコスト

トリップ・ワイヤーとしての米軍沖縄駐留

- ✓ 中国の太平洋進出
- ✓ 第一列島線(中国)と西太平洋防御線(米国)

⇒ 米国にとっての拡大抑止が

直接抑止に転換

⇒ 日米同盟の信憑性に寄与



同盟の論理と沖縄問題

トリップ・ワイヤーとしての米軍駐留

- ・冷戦期の西ベルリン
- ・在韓米軍



国際政治学

講義13-6

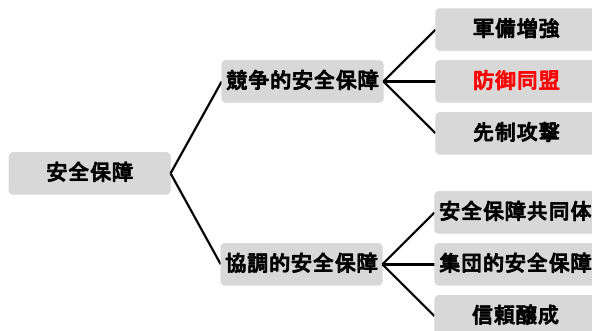
同盟と安全保障

～そして、なぜ日米同盟なのか?～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

日米同盟のパズル

しかし、なぜ同盟で、自主防御(軍備増強)ではないのか?



日米同盟のパズル

なぜ日米同盟なのか?

日本から見た日米同盟の特徴

- ・ 国家安全保障のグランド・デザイン: 同盟 vs. 自主防御
- ・ 片務的同盟は、軍備増強の代替
- ・ 片務的同盟は、「責任転換 Buck-passing 戦略」

米国から見た日米同盟の特徴

- ・ オフ・ショア・バランス vs. (地域外) 覇権主義
- ・ 片務的同盟は、国防の国外・域外への拡大
- ・ 東アジアでの戦略的利益

なぜ日米同盟なのか？

同床異夢:

なぜ**日本**は同盟を選択するのか？

- 平和国家を標榜することで、経済発展の利益を享受
- 低い防御費(GDP比)と低負担高福祉
- 平和国家であることでの域内の緊張緩和

なぜ**米国**は同盟を選択するのか？

- 戦略的要衝としての日本列島
 - 対立国の封じ込め
 - 太平洋権益の防御線
- 「思いやり予算」

なぜ日米同盟なのか？

日米間の共通利益

- 東アジアの不安定要素
 - 同盟がなければ、日本は再軍備・軍拡を進めていたはず
 - 第二次大戦の歴史遺産と戦後処理の経緯に由来する、周辺国が持つ不信感・反日感情
- 米軍駐留による緊張緩和
 - 安全保障ジレンマを緩和するセーフガード

国際政治学

講義13-7 同盟と安全保障 ～日米安保と日本の安全保障～

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

日米同盟と日本の安全保障の行方

東アジアにおける安全保障環境の変化

- 冷戦以降、本土防御に対する**直接的な軍事的脅威**は低減
- 領土問題に起因する、**地域紛争**の新しい不安定要素
- 核武装に成功した**北朝鮮**からの脅威

日米同盟と日本の安全保障の行方

安全保障環境の変化と日米同盟の「近代化」

2014年末を目処に日米**防衛ガイドライン**の見直し

- ・米国は日本の日米同盟への負担増加を求める
- ・日本は「見捨てられる恐怖」に直面
- ・1995年の「ナイ・レポート」から今日に至る新しい安全保障政策の改訂

日米同盟と日本の安全保障の行方

安全保障環境の変化と日米同盟の「近代化」

昨今の安全保障政策の改定の動き

- 憲法改正
- 集団的自衛権
- 新しい意思決定の仕組み
- 新しいタイプの兵力運用
- 攻撃的軍事能力

日米同盟と日本の安全保障の行方

安全保障環境の変化と日米同盟の「近代化」

昨今の安全保障政策の改定の動き

- **憲法改正**
 - 同盟 vs. 自主防御のバランスの大きな変更
 - 域内の安全保障のジレンマを悪化させる
- 集団的自衛権
- 新しい意思決定の仕組み
- 新しいタイプの兵力運用
- 攻撃的軍事能力

日米同盟と日本の安全保障の行方

安全保障環境の変化と日米同盟の「近代化」

昨今の安全保障政策の改定の動き

- 憲法改正
- **集団的自衛権**
 - 双務性を高めるという米国の要求に沿う
 - 望まない紛争に巻き込まれる危険
 - 域内の安全保障のジレンマを悪化させる可能性
- 新しい意思決定の仕組み
- 新しいタイプの兵力運用
- 攻撃的軍事能力

日米同盟と日本の安全保障の行方

安全保障環境の変化と日米同盟の「近代化」

昨今の安全保障政策の改定の動き

- 憲法改正
- 集団的自衛権
- **新しい意思決定の仕組み**
 - 国家安全保障会議(日本版NSC)
 - 特定秘密保護法 ~ 同盟国との軍事外交協力に寄与
- 新しいタイプの兵力運用
- 攻撃的軍事能力

日米同盟と日本の安全保障の行方

安全保障環境の変化と日米同盟の「近代化」

昨今の安全保障政策の改定の動き

- 憲法改正
- 集団的自衛権
- 新しい意思決定の仕組み
- **新しいタイプの兵力運用**
 - 離島防御(緊急展開部隊): オスプレイ、日本版海兵隊
 - 直接緊急抑止力に寄与
 - 米軍基地の沖縄撤退? 海兵隊のグアム移転
 - トリップ・ワイヤーの消失
- 攻撃的軍事能力

日米同盟と日本の安全保障の行方

安全保障環境の変化と日米同盟の「近代化」

昨今の安全保障政策の改定の動き

- 憲法改正
- 集団的自衛権
- 新しい意思決定の仕組み
- 新しいタイプの兵力運用
- **攻撃的軍事能力**
 - F35戦闘機・ミサイル防御
 - 安全保障のジレンマを悪化
 - 敵基地攻撃能力への日本政府の意欲
 - 2013年10月「2+2」会合で米国は認めず
 - 先制攻撃は、戦略的安定性を損なう